

農村集落部門：上市来地区公民館（日置市）

1 地区の概要

上市来地区は日置市東市来地域の北東部に位置し、平成17年の市町村合併後に、銚之原・立和名・荻・北山・上床・田代・梅木・元養母の8つの集落が集約され、自治会が構成されている。

北に中岳，北西に大峰ヶ原，東に重平山があり，地区内を八房川と大里川，江口川が流る水と緑に恵まれた中山間地域である。

また，65歳以上の高齢化率が40.1%と日置市全体の30.1%より高い地域であり，農林業の不振などの課題にも直面している中，平成21年度から「ふるさと豊年（ほぜ）祭り」を開催するなど，むらづくり活動に取り組んでいる。

2 むらづくりの主な内容

8集落からなる規模の大きい地区ながらも，上市来地区振興計画をベースとして，集落営農による地域農業の維持とともに，各集落同士で協力した**地域活性化，特産品開発，伝統芸能継承，定住促進**など，幅広いむらづくり活動に計画的に取り組んでいる。

農村集落の再生

上市来地区は8つの自治会で構成されており，それぞれの自治会単位で，古くから農業生産や伝統芸能継承に取り組んでいたが，少子高齢化の進行に伴い，それぞれの活動が近い将来できなくなる可能性があった。そのような中，平成17年度の日置市の合併後に，小学校の校区単位に自治公民館が集約されたことを契機として，8つの自治会が一体となった「上市来地区公民館」としての活動がスタート。地区住民の話し合いを経て策定した「上市来地区振興計画」をベースに，特産品開発や伝統芸能の継承，定住促進等に取り組んでいる。

多様な主体との連携

<集落営農組織の取組>

田代自治会と元養母自治会では，それぞれの地区住民が立ち上げた集落営農組織の取組により，耕作放棄地の発生防止と地域営農の維持が図られている。

<地区内の連携強化>

平成21年度から，地区公民館と農家や住民が協働して「ふるさと豊年祭り」を開催。このイベントを通じて，各集落の交流・連携と地域の活性化が図られている。

<城西高校との連携>

城西高校の生徒たちが，地区の特産品コンテストへ出品や，豊年まつりでの試食提供を行った。また，特産品開発についても，同高校調理科の先生の協力のもと取組が進んでいる。

新たなむらづくりの形成，むらづくりの維持・発展

<地区の情報発信と定住促進>

平成27年9月から，地区公民館としてfacebookのページを開設。県外に居住する地区出身者からのアクセスも増えつつあり，将来のUターンに繋がることが期待されている。同時に，新たな市営住宅の建設や空き家調査にも取り組み，移住者の受け皿整備も進めている。

<新たな特産品開発>

地域の特産品を生み出すため、しょうがを栽培し、加工講習会等を実施。さらに、今年度は新たに特産品コンテストを開催した。現在、城西高校調理科の先生の協力のもと、特産品の開発・販売に向けた検討を進めている。

<伝統芸能の継承>

地区内の各集落では、棒踊りや太鼓踊り等の伝統芸能継承に取り組んでいる。地区公民館では、それぞれの集落の後方支援として、「のぼり」作成などの広報活動を行っている。

3 今後のむらづくりの方向性

上市来地区振興計画に掲げた「健康で・夢があり・誇れる上市来」というスローガンのもと、同じ課題を抱える他の地域に積極的に取り組んでもらえるようなモデルとなれる地域づくりを目指し、

- ・ Facebookを活用した情報発信のさらなる強化
- ・ 空き屋対策，U・I・Jターナー者を想定した受入体制の整備
- ・ 地元農産物を活用した加工品の製造・販売による6次産業化
- ・ 食育事業や体験型教育旅行の受入体制の充実
- ・ NPO法人や各種団体など、より幅広い主体との共生・協働の推進に取り組んでいきたい。

<活動状況写真>



ふるさと豊年まつりの開催



高校生による試食提供（ふるさと豊年まつりにて）



地元農産物を活用した特産品コンテスト



「北山の火振り」に併せて実施する花火大会